

2020年度第2四半期決算説明会  
主な質疑応答

● 全社

Q：第2四半期の事業利益が、想定に対して上回った要因を説明して欲しい。

A：オフィス・ホーム IJP や商業・産業 IJP、プロジェクター、ロボットなどで想定以上の需要となった。

オフィス・ホーム IJP では、落ち着きを見せると予想していた在宅需要が、北米や欧州で継続している。大容量インクタンクモデルも、シンガポールなどの東南アジアでの在宅需要も発生し始めている。こうした環境下で、販売価格も想定以上に安定していた。

商業・産業 IJP も、回復する需要を確実に取り込むことができた。

費用は、プロモーション費用なども抑制されるとともに、その他の費用も様々な工夫を行い、計画以上に抑制することができた。

Q：販売費および一般管理費などの費用は、下期や来期に向けて、どのような水準となるのか教えて欲しい。

A：ここまでは、削減する計画であったものに対して、コロナ影響もあって、活動もより抑制された状態であった。

今後は、活動再開に合わせて水準は上がるが、かつてのような水準に戻るということはない。

全体では、費用抑制したまま、必要なところで重点的に費用を投下するといったように、プロモーション活動なども、この半年間での環境変化に対応したものに変わってきている。

Q：オフィス・ホーム IJP の競争環境には、どういった変化が見られているのか教えて欲しい。

A：現状は、需要が旺盛の中、どれだけ供給できるかで販売量が決まるという状況になっている。

エプソンの場合は、生産制約があって、十分な供給ができていない。

戦略商品に関しては、外部委託生産の増強や、複数拠点への分散などを進めている。インドネシアでの生産も回復しているので、第4四半期には不足が解消される見込み。

● プリンティングソリューションズ

Q：IJP の在宅需要について、今後の見通しを教えて欲しい。

A：上期に旺盛であった在宅需要は、落ち着きを見せると考えている。

先進国では、北米は需要が継続しているが、日本などでは落ち着きつつある。エマージング地域では、新たな在宅需要も発生しているが、下期から来期にかけて継続したあと、一定の水準に落ち着くとみている。

在宅需要が落ち着く時期を予測するのは非常に難しいが、今回の予想では厳しめの前提を置いている。

Q：オフィスにおいては、レーザープリンターから IJP へのシフトが進んだと考えてよいか。

A：オフィスでの印刷需要は、かなり落ち込んでいる。今後も、オフィス勤務と在宅勤務での印刷の割合が変化し、オフィス印刷が減少すると考えている。

こうした中、専門メーカーは、お客様の困り込みに力を入ると予想している。専門メーカーの守りを崩すのは簡単ではないが、IJP は、環境性能やコストパフォーマンスが優れているので、こうした特長を生かした対応を進めていく。

Q：商業・産業 IJP の中長期の戦略について教えて欲しい。

A：一か所での大量印刷が前提であったアナログ印刷を、多品種少量の印刷に応えられるデジタル印刷への置き換えを進めることにより、産業構造の革新を実現していく。

足元では、COVID-19 影響により、近消費地で分散して印刷する需要も高まっている。

お客様の要望に応えられる商品ラインアップが揃い、また分散印刷を可能にする画像処理や機器管理などのソフトウェアソリューションも充実してきているので、確実に需要を捉えていけると考えている。

以上